

51 LDLアフェレーシスにおける循環血液量変化の検討

大阪労災病院 人工透析室¹⁾、腎臓内科²⁾

平井康裕¹⁾、森脇琢磨¹⁾、倭 成史²⁾、高 美恵²⁾、高原 健²⁾、宇津 貴²⁾、山内 淳²⁾

【目的】家族性高脂血症(FH)患者は、重篤な循環器合併症を有する割合が高く、LDLアフェレーシス(LDL-A)施行時の循環動態安定が望まれる。我々は、LDL-A中の循環動態及び循環血液量($\angle$ BV)の変化を検討した。

【対象及び方法】虚血性心疾患を有するFH患者5例を対象に、LDL-A施行時にクリットラインモニター(CLM)を用い $\angle$ BV変化を検討した。

【結果】血圧の変化や不快症状の見られなかった4例の患者では、 $\angle$ BVは直線的に低下し、血清アルブミン濃度低下に伴う変化と推察された。一方、血圧が不安定であった1例では、LDL-A開始直後より急激に $\angle$ BVが低下するとともに血中ブラジキニン濃度も高値を示し、 $\angle$ BV変化に血管作動性物質が関与している可能性が示唆された。

【結論】CLMを用いた $\angle$ BV監視によって、膠質浸透圧低下のみならず血管作動性物質による循環動態変化についても予測し得る可能性が示唆され、安定したLDL-A施行にCLMが有用であると考えられた。

52 DALI システムの使用経験

天神会古賀病院臨床工学部、同古賀病院腎センター¹⁾、同 新古賀病院内科²⁾

岩本ひとみ¹⁾、中園和子¹⁾、森光祐輔¹⁾、佐藤隆¹⁾、古賀伸彦²⁾

【はじめに】難治性家族性高コレステロール血症に対するアフェレーシス治療は、血漿吸着法(リポソーバーシステム)、二重膜濾過法が主流である。今回、直接血液吸着法である DALI システムを使用したのを報告する。

【対象と方法】ヘテロ接合体 FH 男性 3 名で平均年齢 55.0 才、平均アフェレーシス歴 12.2 年であった。装置は血液浄化用装置 4008ADS を用い、初回は A(500 吸着器)を使用、LDL-コレステロール(LDL-C)の除去率により B(750 吸着器)、C(500 吸着器 2 本)と変更した。1 症例につき 8 回計 24 回施行し、LDL-C 除去率、治療時間をリポソーバーシステムと比較した。

【結果】LDL-C の除去率(%)は A、B、C、リポソーバーシステムでそれぞれ 42.2 ± 4.1 、 55.0 ± 2.7 、 60.9 ± 0.5 、 83.7 ± 2.4 、治療時間(分)は 120.0 ± 12.6 、 124.4 ± 10.7 、 146.5 ± 1.3 、 163.6 ± 8.9 となった。副作用は 1 例に顔面紅潮を認めたが血液流量を減少させ消失した。操作は比較的簡便で回路内に針はなく接続はルア式であった。

【結語】DALI システムは吸着能力に限界があり大容量の吸着器に変更する必要があった。ブラジキニン上昇によると思われる顔面紅潮の出現があり、症例により血液流量に注意を要した。しかし回路構成が単純で操作も簡便であり、薬物療法との併用により臨床応用可能な治療ではないかと考えられた。